

これまで数回、あちこちで入院した経験が幸いした。6月28日、地元の益田赤十字病院で左腎臓と尿管摘出手術を行った。入院には慣れているとはいえ、今回は痛みやだるさで閉口した。あまり我慢せずに苦しければ申し出たほうが良い。退院を間近に控え、最終チェックの膀胱造影検査を行った。そこでとんで

## がんから学ぶ

—がんサロン主宰者が語る—



1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの㈱フジキン総務部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンの益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(ガリアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

島根益田がんケアサロン 代表  
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

# 自分の判断で手術法を選択

もない結果が待っていた。尿道から注入した造影剤は普通、膀胱のみが写るはずなのに、残っていた右腎臓と尿管まで写ってしまった。これは弁が故障しているということ。がん細胞は右腎臓まで進入する。転移が頭をよぎった。頭に透析が浮かんだ。緊急を要するが、取り敢えず退院してから対策を考える。

7月12日、退院して3日目。東京・四谷の至誠クリニック・納賀節二先生に相談に行く。体調は最悪。息子に連れて行ってもらう。羽田空港内では車椅子。翌日築地がんセンターにてセカンドオピニオンを行う。入院を希望したが10月まで満床との返事。やはり有名専門病院は凄い。中国地方で病院を紹介して欲しいと依頼したが、紹介する病院はないとの返事。ではどうする。大阪なら友達がいるとの返事。紹介先は大阪成人病センター(森之宮)。関西圏では有名ながん専門病院である。

7月21日、大阪成人病センター受診。

益田日赤病院からフィルム、情報提供書等資料を全て揃えた。

8月2日、入院。早速検査開始。この病院は400cc×2、採血を行う。腹部造影検査。胸部CT検査。骨シンチジウム等連続検査。スピードが凄く早い。

8月12日、手術についてのインフォームド・コンセント。説明は詳細だったが、手術の選択肢をせねばならない事になった。素人の患者にとっては難しい選択肢である。

手術は3方法でそれぞれに長所・短所があった。①代用膀胱(回腸を使用して袋を作り体内に収める) ②健康者③回腸導管(外に袋を付ける) ④身体障害者③尿管皮膚瘻

普通はお任せしてしまうが、自分はどうしなかった。意味があったわけではないうしなかつた。しんどかったがこの判断が命を今に継いだのを実感する。